

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.13	動作環境	機能変更	必要となる .NET Framework の条件を .NET Framework 4.8 に変更しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	
	Windows OS	サポートOS追加	サポートOSとして次を追加しました。 ・Windows 11 ・Windows Server 2022	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	詳細は製品同梱の Readme.txtを参照ください。
	システムリカバリ	サポート製品追加	システムリカバリ機能にて、Microsoft Office 2021 のアクティベーションを実施できるようにしました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 上、特上	-	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、修復対象領域に存在する読み取り専用属性のファイル/フォルダに対し、delコマンドやrdコマンドによる削除指示を実行すると、本来のOS動作であればアクセス拒否のエラーが返されるが、これがアクセス拒否とならずに削除できてしまふ。 ※PC再起動による瞬間復元では元に戻る。	OS標準の動作と同じになるようプログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードから修復無効モードへの切り替え指示を出した際に、その直後のPC起動からPC終了までの間、瞬快のログファイルである skfsd.log が1分に1MB以上のペースで肥大化する。 ※もう一度PCを再起動するとログは出なくなる。 ※Windows Search サービスが停止している場合は発生しない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	ログのファイルサイズが大きくなった場合でも、次回修復モードに切り替えた際に古い行が削除され、10MB以下に小さくなります。
	瞬間復元ドライバ	復元タイプをパーティションにした場合、クライアントPCのプロパティにてシステムドライブの使用量を表示する仕組みとなっているが、実際の使用量に変化があってもプロパティ表示が変わらない。 ※ファイルフォルダ単位の更新モードでも同様。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	PCの稼働中、瞬快のプロパティ表示にて表示されるディスク使用量が、PC起動時の使用量のまま更新されない。 また、ディスクの空き容量が閾値を下回った場合もPC起動時のみ警告が表示される。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	瞬快クライアントがアラートを検知したとしても、クライアントPCIに表示されたアラート通知への応答操作をしない限り、アラート情報が瞬快サーバへ通知されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	機能追加	瞬間復元機能の簡単設定において、Microsoft Edge の「お気に入り」を修復対象外に設定できるようにしました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	
	クライアントインストーラ	クローニングツール等により、ディスク内先頭パーティションの開始オフセットがOS標準値より改変され、これが32,256バイト未満とされた環境の場合は瞬間復元機能を有効にできないが、瞬間復元機能を有効にするための指示を出すまで、その状態に気付くことができない。	【瞬快クライアント機能の通常インストール時】 開始時に警告メッセージをダイアログで表示するように改修しました。 【瞬快クライアント機能のサイレントインストール時】 メッセージは表示せず、サイレントインストールのログに警告内容を記録しインストールは継続させるように改修しました。(サイレントインストール後の動作モードは修復無効モードになります)	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	
	ツール	サイレントインストール定義ファイル作成ツールの操作において、定義ファイルの新規作成時に「瞬間復元機能なし」を選択して操作を進めると、次のメッセージ表示にて定義ファイルの作成に失敗する。 「定義ファイルの作成中に例外が発生しました。詳細：指定されたキーはディレクトリ内に存在しませんでした。」	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	サイレントインストール定義ファイル作成ツールの起動時に、ラジオボタンで「既存の定義ファイルを編集する」を選択し、Toolフォルダにある BzAgSinst.iniを選択してから作成を進めてください。	
	リモート画面操作機能	「単一PC操作」をスタートメニューもしくは起動用コマンドから起動する場合、内部処理の問題により起動処理途中で停止することがあり、この状態になると通常の操作では終了することも起動しなおすこともできなくなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、コンソール側のコンピュータを再起動してください。	
	リモート画面操作機能	遠隔操作中にコンソール側にてCtrl+Alt+Delキーが押下されOSの処理が中断された場合、OSの処理が回復された後は、通常であればコンソールからCtrl+Alt+Delキーは使えない旨のメッセージが表示されるだけとなるが、コンソール側からのクライアントキー操作ができなくなるとともにクライアントPC側でのキー操作もできなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、クライアントPC側にてCtrl+Altキーを押してください。	
	リモート画面操作機能	Windows8.1環境でコンソールをインストールした場合、遠隔操作中にコンソール側のWindowsOSのロックをずすと、ロック解除後に遠隔操作を継続することができない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、リモート画面操作のプログラムを起動しなおしてください。	
	リモート画面操作機能	ファイル回収機能にて「回収したファイルの保存先」にUNCパスを指定すると、先頭文字の＼を削除したパスを指定したことになる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	ネットワークドライブの割り当てなどにより、UNCパスを使わないようにしてください。	
	リモート画面操作機能	コマンド実行の機能において、コマンド文字列の左端と右端の両方をダブルクォーテーションにした場合、次回コマンド実行時に過去履歴を見ると、左端と右端のダブルクォーテーションが削除されている。 ※左端と右端の片方だけをダブルクォーテーションにした場合は削除されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	瞬快コンソールにて「機器のプロパティ」のコメント欄に、半角のカンマ記号もしくは改行を入力すると、システムリカバリコンソールの起動に失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 上、特上	既存PCのプロパティを変更した場合は元に戻してください。 新規PC追加時にプロパティ入力した場合は当該PCを削除してください。	
	システムリカバリ	瞬快コンソールの「機器管理」-「機器操作」-「メンテナンス」のタブメニューを開き、100台以上の機器情報をエクスポートした場合、次の情報が最大100台分の出力となる。 ・システムリカバリの機器情報 PC管理情報.sro ・システムリカバリの無線LAN情報 PC管理情報.wlan	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 上、特上	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.13a	クライアント	機能追加	瞬間復元機能の簡単設定において、Wi-Fiの接続情報を修復対象外に設定できるようにしました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	複数のディスクが搭載されたPCに対する、ディスクイメージ取得・配信に対応しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 上/特上	-	
	システムリカバリ	機能追加	拡張サービスにて次の動作となるサービスを作成できるようにしました。 ・ディスクイメージ取得の際に内蔵ディスクから起動させない ・ディスクイメージ配信の際に内蔵ディスクから起動させない	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 上/特上	-	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、Windowsにプログラムのインストールを行った場合、スタートメニューに登録されたプログラムのショートカット類が、ログインしなおさないと表示されません。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	Mastercam 2022 がライセンス認証されているPCにてファイルフォルダ単位の修復モードにすると、C:\Windows のフォルダが、0バイトのファイルに見えてしまふ。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとすると、旧バージョンではモード切り替えに失敗することがあり、場合によってはWindowsが起動しなくなる恐れがあるため、Ver.13初版では修復モードにできないよう制限がかけられている。	起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCでも問題が発生しないよう仕様変更し、制限も解除しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	ファイルフォルダ単位の修復モードの場合、2022年度版のAutodesk社の製品は、ライセンス認証が正常動作せず使用できない。	2022年度版Autodesk社製品のライセンス認証処理に対応しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	USBリカバリのディスクイメージ取得画面にて2本目のディスクを選択した場合、選択したディスクの空き容量を表示する際の描画処理に問題があり、状況によっては潰れた文字が表示される。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 特上	なし	
	リモート画面操作機能	瞬快クライアント機能をインストールしたWindows 8.1のPCをキオスクモードにて利用した場合、指定したアプリが起動された後に、一瞬だけ画面がデスクトップに切り替わるような挙動をする。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	Ver.13b	Windows OS	サポートOS追加	Windows 11 バージョン 22H2 に対応しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	-
瞬間復元ドライバ		瞬間復元の動作モードを修復無効モードに切り替える際、元の状態が次のいずれかである場合に、稀に 0x1E のSTOPエラーが発生する。 ・更新モード ・復元タイプがパーティション単位の修復モード	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	なし	
リモート画面操作機能		OS起動時のPC負荷が非常に高いクライアント環境の場合、OSのサービスコントロールマネージャーによるリモート画面操作機能のサービス開始処理においてタイムアウトが発生し、当該サービスの状態が実行中にならない。	1分間隔でリモート画面操作機能のサービスの状態をチェックし、実行中となっていない場合は開始を試みるようにしました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	なし	
スケジューラ		コマンド実行のスケジュールを参照作成した場合、「アクティブなセッションで実行する」のオプションの設定内容が引き継がれない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	なし	
システムリカバリ		USBリカバリ機能でのクライアントPCリカバリを実施する際、サービス適用先パーティションの選択を標準設定の「自動」からパーティション番号に変更した場合、「サービスのコピーに失敗しました。」のエラーとなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 特上	なし	